

# 第3章

## 計画の目標と方針

### 3.1 計画の基本理念（めざすところ）

# みんなで活かし 未来へ<sup>つな</sup>継ぐ 美しい緑輝くまち 安曇野 ～一人ひとりが関わる緑で大地がきらめく～

美しい北アルプスの峰々を背景に広がる田んぼ、屋敷林や庭、せんぜ畑※、寺社の杜等の集落の緑、湧水からの流れや川沿いの緑、わさび畑。そしてこれらが美しく連なる環境。

大昔は海だったこの一帯に、地殻変動で隆起した北アルプスからの様々な自然の恵みと、そこに暮らす人の叡智・技術が、長い時間をかけて相互に作用して、このような特色ある緑が美しく連なるいまの安曇野が存在しています。

急速に生活スタイルが変わるなかにあっても、市内外からの評価が高い緑豊かな安曇野の環境を、これを育ててきた人と緑のつながりに着目しながら未来へ継承してゆくことは、ここに暮らす市民の使命です。

これから先も人と緑、緑と緑、緑を介した人と人のつながりを活かし、安曇野ならではの美しい緑の連なりをより一層輝かせることを本計画の最も大切な視点とし、今後の緑の環境づくりに取り組みます。

わたしたちは、この思いを「みんなで活かし 未来へ継(つな)ぐ 美しい緑輝くまち 安曇野」というスローガンとして掲げ、私たちが持っている安曇野の宝「美しい緑」を、一人ひとりの緑づくりの取り組みの積み重ねを通じて輝かせ、未来につないでいくことを目指します。



※「せんぜ畑」とは、自宅の敷地内や敷地と一体的につながつた場所で耕作されている畑のことで、この地方に伝わる方言です。せんぜ畑では自家用の野菜が育てられており、安曇野を象徴する言葉のひとつです。

## <コラム> 様々な姿・形の緑とその連なり

### ■日頃「当たり前」のようにみている緑を改めて見つめなおすと…

穂高にある大王わさび農場の駐車場から西の方向を眺めると、北アルプスの山並み、そこから流れ出た水に育まれた農地、屋敷林や庭、寺社の杜等の集落の緑、川沿いの緑など様々な緑が見え、そしてこれらが連なる景色を見ることができます。



--- 壁のように連なって見える緑

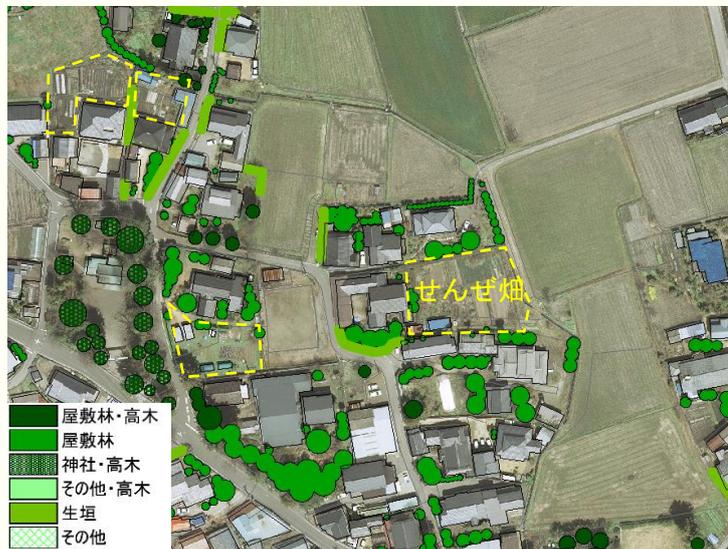
安曇野の緑の大きな特徴のひとつとして、この「連なる緑」の存在をあげることができます。

河畔の緑や点在する屋敷林、庭の緑が緩やかな傾斜の扇状地に分布していることで、山と農地の広がりの前に緑が連なって見え、暮らす人が日々見る風景に潤いや味わいを出しています。



また、周囲を水田に囲まれている集落の中の緑に目を向けると、屋敷の周りには、スギ、ヒノキ、ケヤキなどの高木のほか、生垣、庭の中低木があり、その敷地と一体的に連なるようにして小さな畑“せんぜ畑”もみられます。

身の回りにも様々な姿形をもち、それぞれに役割をもった緑が存在していることに気がきます。



### ■保ちたい「緑の連なり」、緑と人のつながり

このような特徴をもつ安曇野の緑は、先人たちが常に水とのつきあい方を見出しながら苦労して、数千年の歴史を経て形成されてきたものでもあります。雄大な山々を背後に連なる緑の美しさ、これを支えてきた人の歴史は、安曇野の価値を高める大切な要素のひとつです。

この計画では、その価値の背景にある緑と人との関係を改めて見つめなおし、時代の流れも踏まえた新たな関係づくりに力を注ぎ、北アルプスの前景として映える緑の連なりを未来に継承していくことに重点を置きました。

## 3.2 計画の基本方針と取り組みの柱

人と緑、緑と緑、緑を介した人と人のつながりを活かし、安曇野ならではの美しい緑の連なりをより一層輝かせるうえで、次の点に着目します。

安曇野の宝ともいべき緑ではありますが、近年、安曇野市では、その緑についての困りごとを挙げる市民が73%にも達しています。

生活様式の変化に伴い緑の使途が薄れ、コミュニティは希薄化しつつあり、木々は大きく成長し、手入れする人の高齢化も進行しています。緑と人との関係だけでなく、緑を通じた人と人のつながり方も急速に変化している状況にあります。この状態を放置すれば、宝としての緑の機能も価値も大幅に低下していくことが懸念されます。

これから先、人口減少も予測されています。しかし、市土の面積の約8割を占める緑の潜在力は大きいものです。

このような状況だからこそ、人と緑のつきあい方を見つめなおし、緑のもつ力や営み、魅力を暮らしや活力創出に活かす術を生み出さなくてはなりません。

市内の特徴的な緑と、大きな都市部ほどにはまだ途絶していないコミュニティ力を、市民・行政・企業等の個人・団体が相互に維持・育成していくことが必要です。

以上の観点から、緑のもつ力や営み、魅力を暮らしや活力創出に「活かす」術を見出して取り組むこと、生み出すことと、人と緑のつきあい方「ふれあい」を見つめなおし、これからの時代にマッチするように改めていくことの2点を重視した基本方針を定めます。

### 基本方針 1

## 緑を活かす

北アルプスの山並み、きれいな水などの美しい環境や豊富にある緑の潜在力を活かしながら、変わりゆく時代の要請に対応した緑の環境づくりに取り組みます。

公園やオープンスペースを、活力や新たな発見を生み出す緑の拠点へと転換させ、みんなで楽しめて得する緑を生み出すとともに、その美しさや状態を良好に保ち、安曇野の魅力と価値を高めて、暮らしが潤う循環創出につなげます。

**緑を活かして  
「活力創出・魅力向上」**

### 基本方針 2

## 緑とふれあう

人と緑との関わり、緑を介した人と人のつながりを継承・活用していくための様々な「ふれあい」づくりに力を入れます。

特に未来を受け継ぐ若い世代を中心に、地域の緑を知り、個々の緑化への理解や関心を高める取り組みに重点を置きます。

あわせて、地域のコミュニティが従来のスタイルから変化している昨今、地域の緑をめぐる悩みの解決方法に工夫を加え、共に楽しみながら助け合える仕組みの実現に力を入れます。

**人・緑の  
「多様なふれあい」づくり**

# 緑を「活かす」＋ 緑を通じた「ふれあい」 ⇒ 緑をつなぎ・未来に受け継ぐ

## 基本方針1 緑を活かして「活力創出・魅力向上」

### 緑を活かす

活かして  
つくる

高めて  
活かす

緑豊かな環境を活かし、その質を高めて新たな価値や魅力、活力を生みだそう

#### 柱1：豊かな環境を活かす新たな緑づくり

北アルプスの山並み、きれいな水に代表される美しい環境や豊富な緑の潜在力を活かし、時代のニーズに応えた活力を創出する緑の拠点をつくり、みんなで楽しめて得する緑を生み出します。

#### 柱2：緑の質を高めて活かす

緑の美しさや状態を良好に保つことで、安曇野の魅力と価値を高め、人が訪れたり、暮らしが潤う循環につなげていきます。

## 基本方針2 人・緑の「多様なふれあい」づくり

### 緑とふれあう

知って  
楽しむ

みんなで  
育てる

緑をもっと知って楽しみ、緑を通じてつきあいを深め、市民の宝である「緑」をみんなで育てていこう

#### 柱3：緑の恵みを知って楽しむ

未来を受け継いでいく若い世代を中心に、地域にある緑を知り、一人ひとりが楽しみながら身近な緑と関わるることができる取り組みを積極的に推進します。

#### 柱4：緑を通じて地域の課題を解決する

地域の緑をめぐる悩みを解決するため、これまでとは一味違った手法や仕組みづくりに取り組み、緑を通じた地域の和や輪の再生につなげます。

## 3.3 緑の将来像

緑地の維持・保全と創出の基本方針 ～緑地配置の基本方針～

### 緑を活かす

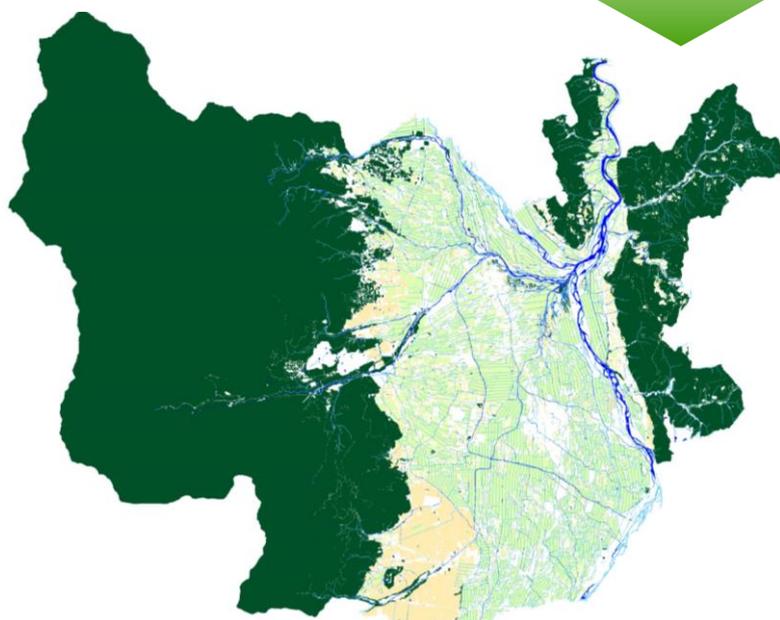
柱1：豊かな環境を活かす  
新たな緑づくり

柱2：緑の質を高めて  
活かす

### 緑とふれあう

柱3：緑の恵みを知って  
楽しむ

柱4：緑を通じて  
地域の課題を解決する



#### <面や帯など広がりをもった緑>

安曇野市の環境の基盤となるまとまりや広がりをもった森林、耕作地。河畔や水辺の緑は、その質の改善に努めながら未来に継承します。

- 生産の場としての田畑の維持、耕作放棄地再生
- 資源の活用と併せた森の整備
- みんなで共有する川・水辺の環境を維持



#### <点の緑>

都市や集落といった暮らしの空間の中で、緑を知り、緑を楽しみ、緑とふれあえるさまざまな「拠点」を知って使い、活かして育てます。

また、市街地や集落が散在する都市構造を踏まえ、人口の集積程度、増減等を勘案しながらバランスよく緑を確保します。

- 公園・オープンスペースの機能強化、拡充
- 庭先の緑・家庭菜園とのふれあい
- 神社・屋敷林など点在する緑の保全

## 緑の将来像 ～緑の位置・広がりで示す概念図～

市街地の周りを取り囲む豊かな緑をまとまった単位で保全・継承し、点在する庭の緑や屋敷林の緑を保全・継承できる仕組み、仕掛けの構築を重点的に進め、背景となる北アルプスに映える緑の広がりや緑の連なりを維持します。

### <広がりをもった緑の保全>

#### 東西両側の森林の保全

市街地や集落、耕作地にきれいな水と空気をもたらす、良好な景観の背景となる環境を保全・継承。また東西山地の特性を踏まえた森林整備を通じて下流の安全を確保。

#### 山麓居住・観光と調和した森づくり

森に囲まれた別荘地や宿泊・観光施設が散在。生活環境・滞在環境としての質の向上につながる緑の整備を推進。

#### 河畔の緑の保全

犀川、高瀬川、穂高川など河川管理者との連携のもとで緑のあるオープンスペースを維持。

#### 田園環境の保全

食料生産の場、平坦地の環境保全、良好な景観形成にも寄与する農地の広がりを保全。

#### 山岳～西山の急斜面の森林環境の保全

土砂災害防止法関連の区域指定に沿った土地利用規制のほか、県や国の森林整備、治山事業等との連携を通じて、良好な森林環境を維持。

#### 東山の急傾斜の森林環境の保全

地すべり対策等山地災害防止の観点からの森づくりを継続して推進。

### <点の緑の充実・点在する緑の連なりの継承>



#### 拠点公園の整備・活用

市内に散在する資源を活かして整備されてきた公園を、子育て世代の期待に応える拠点として、また地域の活力創出、魅力向上につながる拠点として活用。さらに、市内都市公園の充実を図るため新規公園の整備を検討。

#### 緑の連なりの継承

● 緑豊かな庭の多い田園集落

● ▲ 社寺林・屋敷林

地域に点在する社寺林や個人の庭の恵みを実感できる取り組みや、その恩恵を継承できる保全活動の仕組みづくり、支援等に取り組み、点在する緑が生み出す「緑の連なり」を未来に継承。



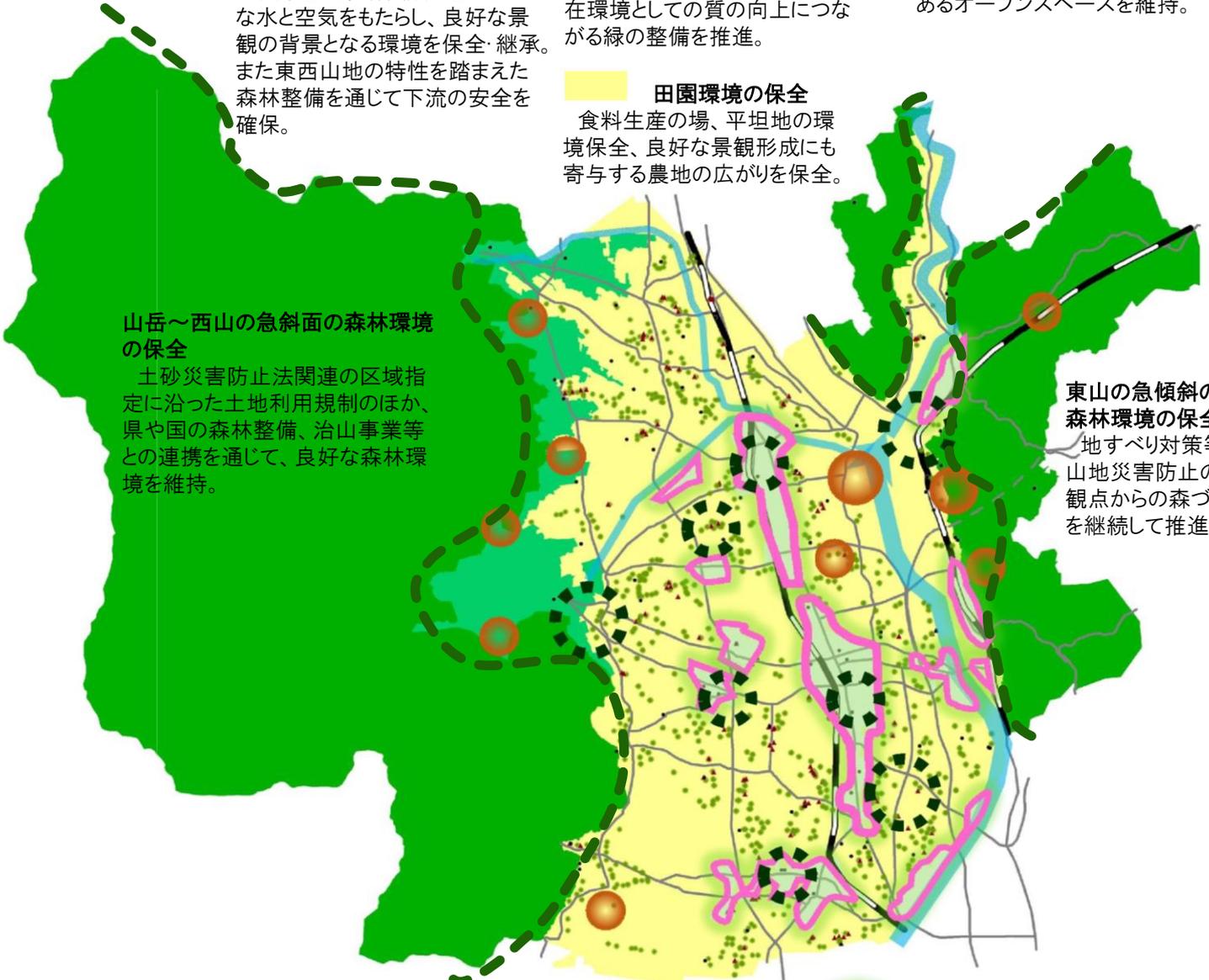
#### 市街地の緑化推進

公園等での体験交流や集落の緑の保全活動の積み重ねをきっかけとして、市街地へも緑化推進の取り組みの輪を拡大。身近な場所での木々や花による空間づくりをサポートする取り組みを推進。



#### 滞在拠点・緑の見どころ 拠点の活用

宿泊施設や観光拠点周辺の広場、オープンスペース、公園的空間を、安曇野を体感できる場として活用。巡って楽しむ仕掛けと併せて活性化。



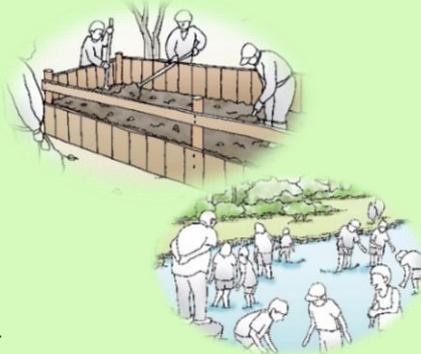
## 緑の将来像 ～実現イメージ 暮らしに身近な緑～

本計画の主な対象は、まちなかや集落の緑です。郊外に比べ、拠点となるような公園や魅力ある花や緑の空間が少ないこと、維持管理への関心が薄れてきていること、身近な公園が十分に活用されていないこと、緑の恵みを活かしきれていないこと、緑が厄介者になりつつあることを踏まえ、**身近な公園や集落・まちなかの緑の空間を楽しみ、親しめる空間へと改善する取り組みを重点的に展開します。**

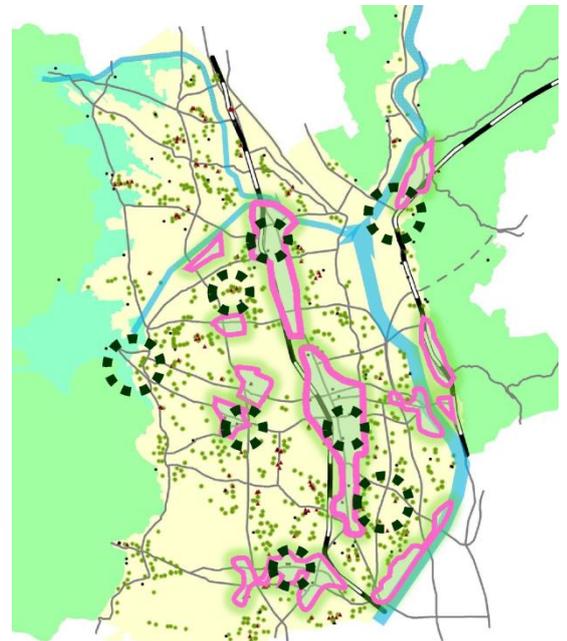
### 公園施設・管理体制の改善



老朽化した施設を改善、利用機会が減った公園を使いやすい施設へリニューアル



地域の公園をそれぞれの利用ルールによって管理する仕組みづくり



- 拠点公園の整備・活用
- 屋敷林・社寺林
- 市街地の緑化推進
- 田園環境の保全
- 緑豊かな庭の多い田園集落
- 山麓居住、観光と調和した森づくり
- 急斜面の森林環境の保全

### 暮らしに身近な公園の整備

地域のニーズを反映した公園の整備を検討、日々の暮らしとつながりがあるまちなかの拠点公園の充実を図る

### 地域の美しい緑の育成・継承

地域で理解を深める活動から始め、保全のための仕組みづくり(保存樹林等の新たな制度等)へつなげる

例)子どもたちを交えたシンボルツリー探し



相談窓口の設置や太い枝葉の処理支援等により、緑を巡るストレス解消を側面的に支援

### 緑化推進

北アルプスに向かう道への花修景や、拠点となる公共施設での花や樹木の育成例)市木ケヤキの植樹推進



まちなかや集落、事業所等での彩りある緑化の推奨



### 緑の恵みを実感できる機会 拠点公園の活用

緑と親しみ、その恵みを実感できる体験や交流活動の場として拠点公園を積極的に利用



## 緑の将来像 ～実現イメージ 面や帯の広がりある緑～

まとめて広がる緑のうち、森林や農地については農林業の振興の観点から必要な方策や環境整備を通じて、また、河畔の緑については河川を管理する国や県の取り組みとの連携を通じて維持することが基本となります。本計画では、「人と緑のふれあい」という観点から、緑への関心を高めたり、生活に近い空間で荒廃した環境を改善する等の取り組みの実現に向け、重点的に推進することとします。

### 様々な主体による再生の取り組みを通じた緑の保全・継承 里山や森林の再生



「さとぶろ。学校」での里山整備を通じて知識や技術を習得し、里山再生の人材を育成



人と自然との共生について学び合い、里山を未来へ引き継いでいくことを目的とするNPO団体が活動中



健全で多種多様な環境を目指し、企業との連携による森づくりの推進



### 協定、地域と行政の連携等による 水辺や耕作放棄地の再生・修景



アレチウリなど外来植物を駆除し、多様な水辺の生物が生息する空間づくり

景観育成住民協定に基づく地区住民による沿道緑化、荒廃農地の再生に向けた取り組みを推進



景観育成住民協定



荒廃農地再生

### 緑・水辺・宿泊滞在拠点での体験交流の充実による 活力創出

温泉、山岳、森、水辺など安曇野の魅力である自然環境を、宿泊+体験して楽しむことができる「緑の滞在・交流拠点」の充実



北アルプス山麓の滞在拠点  
(しゃくなげの湯)



市内各地でのカヌー体験

### 緑の名所育て

光城山1000人SAKURAプロジェクトを事例に、新たな緑の名所づくりに向け市民主体による緑に関する育成活動を支援



### 緑の資源の有効利用

燃料や木工作品など、マツ枯れによる発生材を有効活用する仕組みづくり

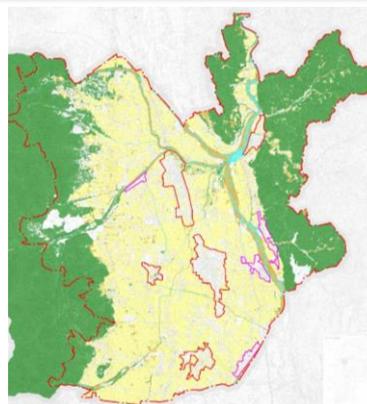


### 3.4 計画の目標水準

計画の基本理念と方針、緑の将来像を踏まえ、本計画の目標水準を定めます。  
目標として定め達成すべき成果のイメージと、その実現に重要な数値指標をまとめます。

#### 目標1：きれいな水や空気、美しい景観等の多様な恵みをもたらす「まとまりある緑」を保全する

安曇野市の都市計画区域の自然的な土地利用(農地・森林・水辺・その他の自然地)の面積は76.7%に達します。人口増加に伴い市街地が広がってきましたが、これだけの空間が存在することで、安曇野市の良好な環境が保たれてきたと考えることができます。農地の一部が継続して宅地・道路等へ転換されるなかであっても、この環境は未来に向けて残すべきものです。近年の人口減少等の情勢や緑の質の改善も勘案しながら、これらの緑を保ち継承することを目指します。



都市計画区域内の森林・農地・水面・その他自然地の分布

#### 緑地確保の目標

- 市内に保たれている自然的な土地利用を維持
- 市内の緑の質に対する満足度の向上 (現状) 28% → (目標値) 33%以上

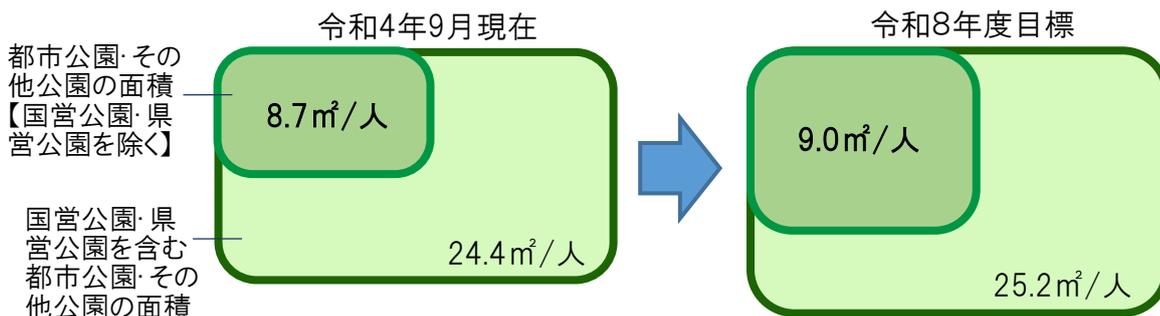
#### 目標2：親しみや愛着をもってふれあえる「みんなの緑の空間」を増やす

現在、安曇野市にある公園面積のうち国営公園・県営公園の面積は約2/3を占めますが、いずれも県域を超える広域利用に供する施設であり、市民にとって身近な公園は公園全体の3割程度に限られます。いまある身近な公園を最大限活用できるよう改善しながら、必要な箇所については敷地拡張や新規整備により充実を図り、市民の満足度の向上を目指します。

#### 公園の整備目標

- 国営・県営公園を除く公園の拡張や新規整備 (おおよそ6.6ha)  
豊科南部総合公園拡張、しゃくなげの湯周辺、まちなかでの拡張・整備等を推進。
- 市全体の公園、オープンスペースの質に対する満足度の向上 (現状) 17% → (目標値) 20%

#### 1人当たり都市公園・その他公園の面積【国営・県営公園を除く】の目標値



\* 都市公園は、都市公園法に基づいて設置された公園です。その他公園は、児童遊園や農村公園、条例を設けて設置した公園を含みます。

## 目標3： これからの「緑とのつきあい方」を見出し、 みんなで育て継承する気運を高める

ひと昔前までは庭木を手入れしたり農作業を行うといった緑とのつきあいが当たり前で、必需品でもありました。しかし、近年は緑に対して困りごとをあげる人も増え、本来私たちの暮らしに欠かせない緑が厄介者扱いされつつある状況です。

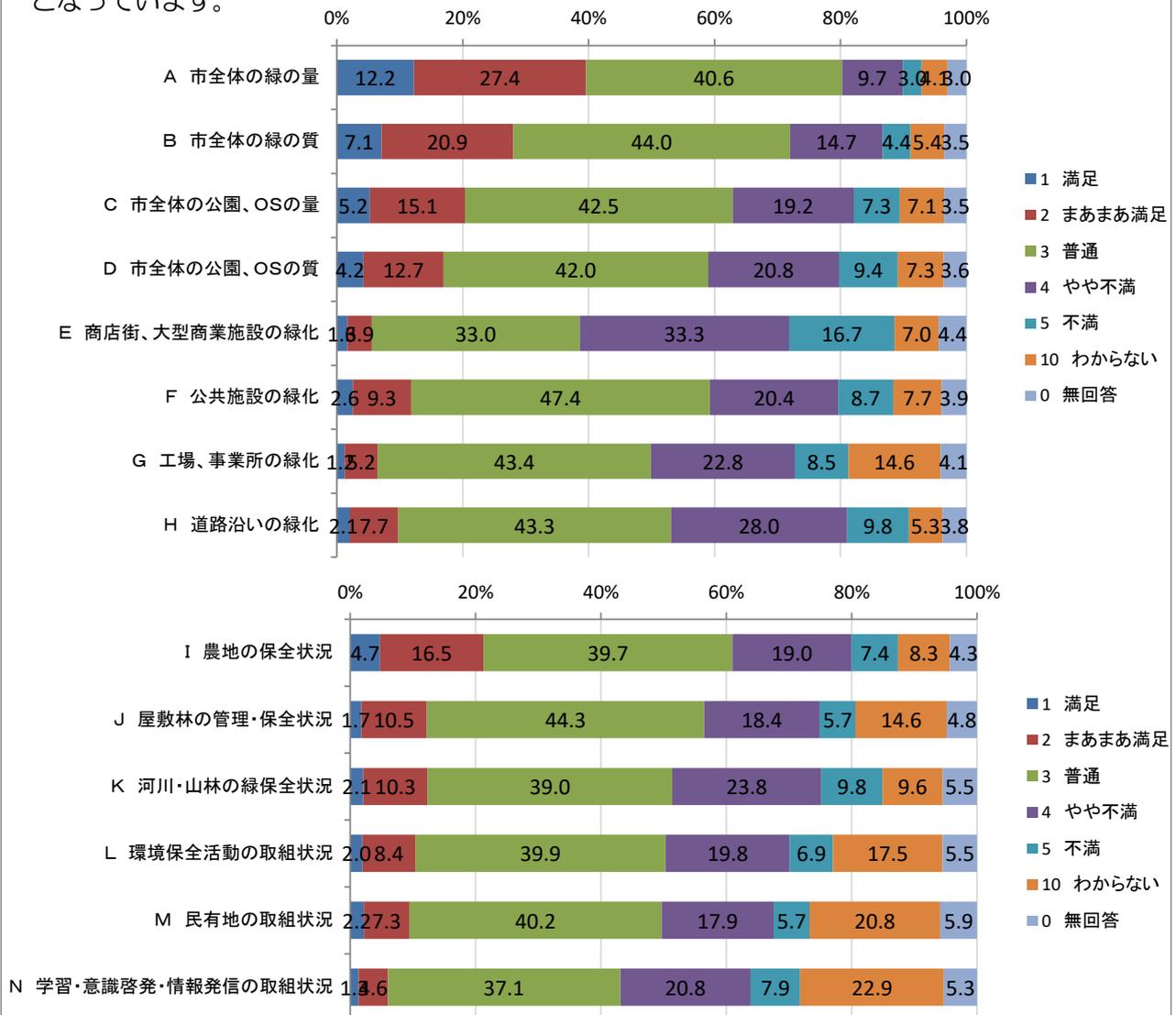
改めて緑に目を向け、知って、新たな楽しみやふれあいの機会を生み出し、緑に新たな価値を見出し、これからの時代のなかでも必需品として認識されるような気運を高めることを目指します。

### ○緑の学習・普及啓発・情報発信の取り組みに対する満足度の向上

(現状)5% → (目標値)15%

### <コラム> 緑の量・質、施策に関する市民の評価

平成27年度に実施した緑のまちづくり市民アンケートでは、緑の量や質、施策に対する満足度を5段階でお聴きしています。量には約4割の方が満足していますが、質は3割弱にとどまっています。また、情報発信等の取り組みについては「わからない」が設問項目の中で最多となっています。



### 3.5 地域ごとの概要と目標

市全体の将来像や目標を踏まえ、都市計画マスタープランに示された4つの地域ごとに、緑の整備や保全に関する基本的な方向性を、それぞれの地域の緑の特徴や人口の動態を踏まえてとりまとめます。なお、詳細な計画については、第6章に示します。

